佐伯通信

2022年3月（令和4）
第59号
発行
佐伯泰英事務所
担当／光文社
禁・無断転載

時代の変わりめ

みかんにも公衆電話の使い方を教えておかないと!?（写真提供・佐伯泰英事務所）

梅の季節を迎えてめでたくも八十路を迎えた。とはいえ世界じゅうにコロナ禍が居座り、憂鬱である。

めでたいニュースはないかと思っていたら、京都からめでたい知らせが飛び込んできた。わが小説の愛読者にして「佐伯通信50号」に登場の伏見稲荷大社の黒田長宏氏が権宮司に昇進されたのだ。コロナウイルスが流行る前、伏見稲荷には世界じゅうから観光客がつめかけた。

50号に記述したとおり、大嘗祭当日祭に偶さか伏見稲荷に黒田氏を訪ねたところ、本殿の祭事の場に招かれたのだ。本殿外には大きな賽銭箱がある。われら親子の背後に、チャリンチャリンとひっきりなしに硬貨が投げ込まれる音がして、なんだか景気がよくも神様になったような錯覚を覚えた。

そんな伏見稲荷大社の権宮司とは、ナンバー2のお偉いさんだ。

佐伯泰英／近刊のお知らせ

5月10日
《文春文庫》
空也十番勝負 ⑦『風に訊け』

6月7日
《文春文庫》
新・酔いどれ小籐次 ㉓『狂う潮』

6月14日
《光文社文庫》
『浮世小路の騒ぎ』（仮）

7月6日
《文春文庫》
新・酔いどれ小籐次 ㉔『八丁越』（仮）
「佐伯通信」第60号が入ります。
（初版の初回出荷分にのみ挟み込み）

8月4日
《文春文庫》
新・酔いどれ小籐次 ㉕『タイトル未定』 完結

※発売日は予定です。

《光文社文庫》
吉原裏同心【決定版】刊行開始!

4月12日	❶流離	❷足抜
5月11日	❸見番	❹清掻
6月14日	❺初花	❻遣手
7月13日	❼枕絵	❽炎上

「吉原裏同心 決定版」刊行開始です!!

㈱光文社　文庫編集部
「新・吉原裏同心抄」「吉原裏同心抄」
「吉原裏同心」「夏目影二郎始末旅」担当
小口　稔

みなさま、『吉原裏同心37　独り立ち』をお読みいただきありがとうございます。昨年刊行しました『吉原裏同心36　陰の人』から、これまでシリーズ名を変えつつ展開してきましたシリーズを「吉原裏同心」に統一しての2作目となります。内容も、前作で本当に大きな一区切りがつき、新たなる吉原での物語が始まりました。今作のタイトルである「独り立ち」の意味、非常に深いものを感じます。

そしてあらためて4月から「吉原裏同心　決定版」を第1巻から刊行いたします。毎月2冊の刊行となりまして、ほぼ1年半連続でお届けします。これまでご愛読していただいたみなさまにも、これからシリーズを読んでみようというみなさまにも、ぜひぜひ手に取っていただきたい!　この決定版から弊社でも「電子書籍版」の刊行が開始されますが（もちろんそちらもよろしくお願いします!）、文庫の決定版は、手元に揃えて、ゆっくりカバーなど愛でながら読みたいと思える本を目指しております。

また、6月には1冊読み切りの作品『浮世小路の騒ぎ』（仮）も刊行されます。『新酒番船』『出絞と花かんざし』に続く第3弾。こちらもどうぞお楽しみに。

なかなか収束が見えないコロナ禍で、厳しい状況が続いていますが、まずはみなさまもご健康にお気を付けください。引き続きどうぞよろしくお願いいたします!

近刊・作品情報はこちらでもチェックできます。
https://www.saeki-bunko.jp　佐伯泰英　ウェブサイト　検索

2022年の「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が㈱文藝春秋、㈱光文社の協力のもと発行します。

諸々考えたが伏見稲荷のお狐様がコロナウイルスの禍を避けてくれると信じて、初午の日に京都を訪ねようかどうか思案している。ともあれ、コロナウイルスはあれこれと社会をよくも悪くも変革した。

近ごろでは賽銭もキャッシュレスでできるところがあると聞く。電子マネーのペイペイやスイカなんかで決済するそうな。なんとも摩訶不思議な世の中になったものだ。

「佐伯通信」第60号は7月6日刊行予定の『新・酔いどれ小籐次24』（文春文庫）に入ります。

出版社からのお知らせ　光文社文庫

2022年4月12日刊行開始!
『吉原裏同心 決定版』
カバーデザイン一新、全編加筆修正で
全35巻を毎月2冊刊
4月 ①流離 ②足抜　5月 ③見番 ④清掻　6月 ⑤初花 ⑥遣手　以下続刊
電子書籍版も同時刊行!
「夏目影二郎始末旅」全15巻も電子書籍化!

出版社からのお知らせ　文春文庫

新・酔いどれ小籐次
6月・7月・8月 連続刊行で ついに完結!